

■【トピックス】
パーマクライシス！



2022年を振り返れば危機の1年であったといえます。英国の出版社は昨年を代表することばとして「パーマクライシス」を選びました。永続(permanent)と危機(crisis)とを合わせた造語です。意味は永続する危機ですね。

確かに終わりの見えないコロナ禍に、ロシアによるウクライナ侵攻と危機が続いています。2023年は、さらに食料危機、エネルギー危機、金融危機が懸念されます。ますます難しい時代になりました。

■【今月のキーワード】

ROIC

ROIC (Return on Invested Capital) は、投下資本利益率のことであり、利益/投下資本として算出されます。資産の収益性を判断する指標として注目を集めています。分子の利益は損益計算書 (P/L) 勘定であり、分子の投下資本は貸借対照表 (B/S) 勘定であるので資本の効率性を見ることができます。ROE (Return On Equity : 自己資本当期純利益率) と違い、企業を全体として見るのではなく、特定の事業に分解して、それぞれの収益性を判断する場合に力を発揮します。

■【ビジネス・アイ】
ROIC！

社長 「最近、うちもなんとか利益が出ているけど、このままではいけないと思うんだよね。これまでは売上と利益だけを見て管理してきたけど不安もあるんだよね」

花野 「そうですね。損益計算書の指標だけでなく、貸借対照表も反映した指標を見てみる必要がありますね」

社長 「そうだね。経済新聞なんかで ROE とかいうのをよく見るんだけど、あれはどうか？」

花野 「投資家目線から上場会社を見る指標として ROE は良いんですが、株主が同族だけの中小企業にはそぐわないところがありますね」

社長 「そうなんだ。それなら他にいい経営指標はないのかなあ？」

花野 「それなら、今上場会社も注目している投下資本利益率 (ROIC) という指標がありますよ。」

社長 「その ROIC というのは具体的にはどうやって計算するかなあ？」

花野 「特定の事業で稼いだ利益を、その事業で使っている資産で割って計算します。計算された率を事業ごとに比較することで優劣が分かります」

社長 「ということは、会社全体ではなく事業ごとの管理に有効な指標ということなんだね」

花野 「そうですね。ただ ROIC を採用するためには、資産を事業ごとに分ける必要があります」

社長 「そうなんだ。面倒な作業もありそうだけど検討してみよう」

■【今月の1冊】

『悪魔の傾聴』

中村 淳彦 著

飛鳥新社 ¥1,400

人の話を聞くという傾聴ですが、その重要性は分かっているでも実践しようとする、意外と難しいものです。

相手の話を聞きながら、解決策を提示したり、自分の経験を話しがちです。しかし、傾聴ためには、自分を殺して相手の話を徹底して聞かなければならなりません。本当の意味での傾聴が分かる1冊です。



■【編集後記】

サッカーのワールドカップでは、日本が2度のジャイアントキリング (ドイツ・スペイン戦) を達成して決勝トーナメントへ進出しました。最後は残念な結果に終わりましたが、明るいニュースのなかった日本を久しぶりに盛り上げてくれましたね。

『経営のセカンド・オピニオン』 vol.190 (毎月1日発行)

●定価：2,400 円/年 ●発行日：2023.1.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808